

# ～激変するアジア 問われる日本の外交戦略～

## 国際教養大学 学長 中嶋嶺雄氏 インタビュー



国際教養大学 (秋田県秋田市)

1989年のベルリンの壁、続くソ連邦の崩壊に伴い東西冷戦が終り、「一人・モノ・金」で世界を席巻するアメリカン・スタンダード、そして中国の国際舞台への台頭は、日本を取り巻く外交、政治、経済環境の激変を引き起こした。とりわけ、日本にとり台風の目となっているのが10年急激な経済成長する中国である。

バブル崩壊から20年足らず、ようやく回復基調に乗る日本国内も政府の台所はピンチ状態。行財政改革も緒に付いたばかりで今後の見通しはまだ五里霧中だ。これまで後手に回りがちだった日本の外交を立て直すには、日本は何をなすべきか。また国内の優先課題とは、などについて国際社会学者である国際教養大学理事長・学長の中嶋嶺雄氏に聞いた。

(取材は成澤礼夫米沢日報社長)

### 学問で先陣を切る 米沢人

中嶋先生は、「専門の中国研究の中で米沢人について着目されておりませぬ。」

中嶋学長 米沢出身者の中で、明治時代に上海総領事などを歴任した小田切万寿之助は近代の日中関係を築いた一人ですが、ほかに宮島大八(詠士)を忘れるわけにはいきません。日本では書家として、また中国語教育者として大変に有名な人です。彼らは東京外国語学校(現東京外国語大学)の支那語卒であり、大八が編纂した教科書『北京官話 急就篇』は日本の中国語教育に大きな貢献をしました。

これらの人々を輩出した米沢の土地柄は、藩校「興譲館」があり、儒学や漢学の伝統がありました。元東京外国語大学学長で私の恩師の鐘ヶ江信光先生は宮島大八の教え子の一人で、大八の書を大切に保存されています。明治期、東北は近代日本の先頭に立たなかっただけに、米沢は余計、学問の方向で頑張ろうとしたのだと思います。

### 日本の安定と安全は「日米同盟」にある

戦後60年が経過して、日本を取り巻く環境が大きく変わりました。世界の平和と安定のために、自衛隊のPKOやイラクへの復興支援活動のように人的貢献を求められるようになりました。憲法の中で自衛隊の存在根拠、また教育基本法の見直しなどの議論もスタート致しました。戦後の総決算としての憲法議論、現在の方向性についてどうお考えですか。

### 10年前に、現在の中国の加速度的な

軍事、経済的発展をだれが予想できたでしょうか。少なくとも先進国並にならざるを得ないのに、軍事力を増強しているのは、一つは国内が不安定だからです。昨年からだけで、農民の反乱が7万5千件に上っています。沿海部と内陸部の格差が広がり、矛盾が多く出ています。

中嶋学長 戦後60年、小泉首相のいうある種の戦後の総決算だと思えますが、日本の過去についてもきちんと振り返る必要があります。明治維新以来の近代化のプロセスの中で、日清戦争、日露戦争、大東亜戦争があつて、今の中国のようになっていく。憲法問題については、自民党はもと早く着手すべきだったと思います。それが中々できて、ここに至る大きな転機期に入っています。

## 日本にとって、中国の台頭は、資源、環境、軍事的にやっかいな存在になる

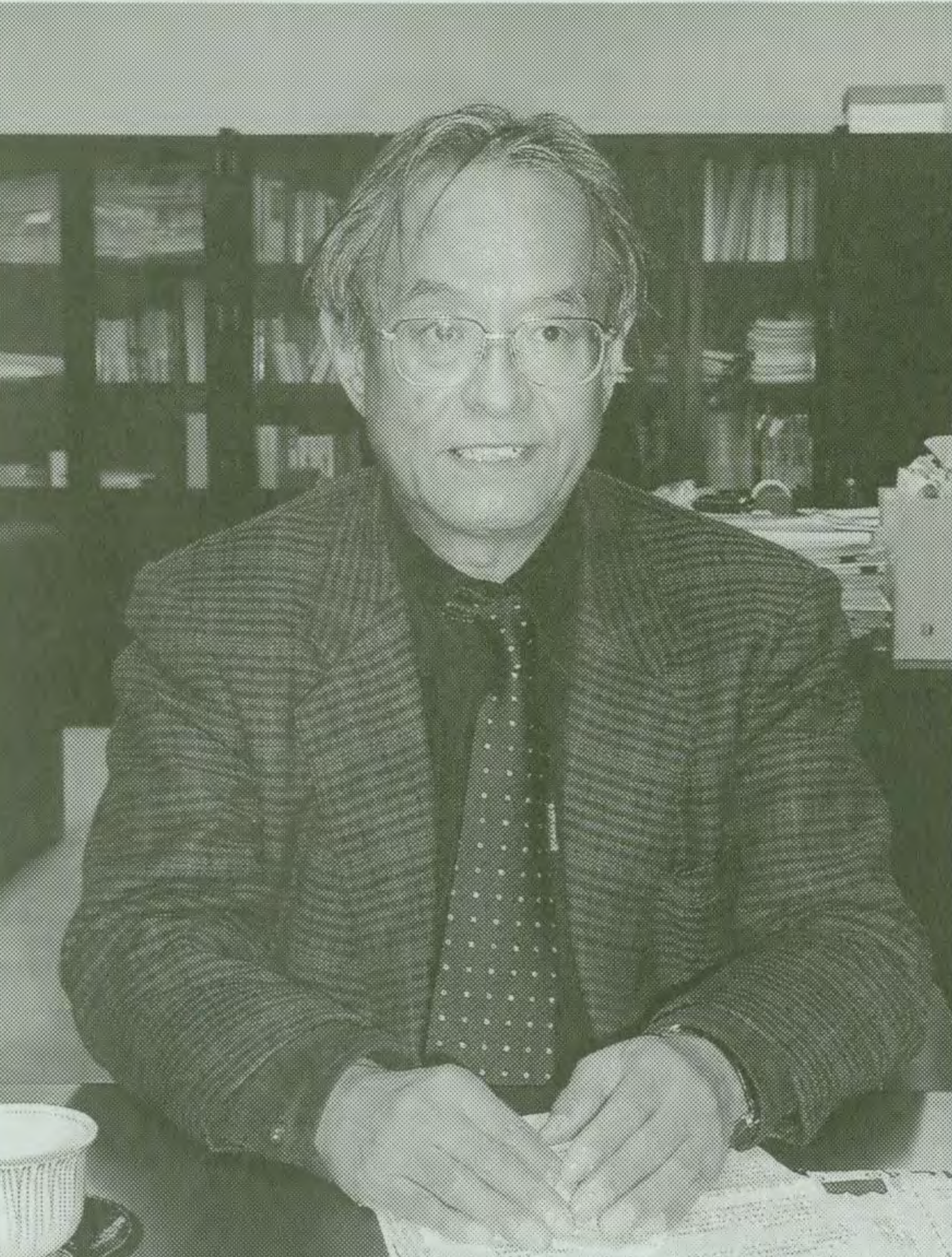
特に、中国の台頭は今後、ある意味での脅威であり、大変なトラブルメーカーになる」という意味で申し上げました。例えば環境問題ですが、人口増加、環境汚染、資源の乱開発、乱消費による地球温暖化への影響は図りしれません。これらを考えると、中国をいかに穏やかな方向に導いていくかが大問題です。

カーになる恐れがあります。それは共産党独裁体制、軍事力の増強、台湾問題そして環境破壊があるからです。単純かもしれないが小泉首相が言っているように、「日米同盟」の重要性については私たち日本人はきちんと押さえておく必要があります。日本の主体性を増すために、米國から離れることを勧める論調は危険です。

## 21世紀、日本のリーダーシップはどこから生み出す

「世界でも類い希なる急激な少子高齢化を迎えた日本は、今、人口のピークを迎えようとしています。今後世界の中で日本はリーダーです。」

中嶋学長 少子高齢化社会は、同時に「知的基盤社会」です。同時にグローバル化の社会では、環境にグローバル化の社会の中でこそ、



公立大学法人 国際教養大学 理事長/学長 社会学博士 中嶋嶺雄氏 Mineo Nakajima ph.D.

国際社会学者。1936年、長野県松本市生まれ。文学士(東京外国語大学(中国科)、1960年)、国際学修士(東京大学、1965年)、社会学博士(東京大学、1980年)。1977年、東京外国語大学教授。1995～2001年、東京外国語大学学長。1998～2001年、国立大学協会副会長。現在はアジア太平洋大学交流機構(UJAP)国際事務総長。文部科学省中央教育審議会委員、公立大学協会理事などを兼務。オーストラリア国立大学、パリ政治学院、カリフォルニア大学サンディエゴ校大学院の客員教授を歴任。著書は「現代中国論」「中対立と現代」「北京烈烈」(サントリー学芸賞受賞)「国際関係論」「中国・台湾・香港」など多数。2003年「正論大賞」受賞。



経済が活況を呈する上海 (上海空港の朝)

交の「妙」なものです。ところがそれをしないから、次々に中国との外交では始めから位負けしています。ですから謝罪外交になってしまっています。

中嶋学長 明治期のイギリス公使、ア

### 日本の国連への役割、アジアの共同体構想

「昨年、日本は国連常任理事国入りを目指し運動を行いました。米國からも賛同が得られず頓挫しました。常任理事国入りはともかく、国連の経費の20%近くを負担しながら、敵国案項の削除もなく未だ敗戦国扱いです。700兆円を越える借金国の日本が、この戦争を経て平和な社会を築きたいという理想が根底に据えられています。もちろん、米國と経済主義への対抗の意味合いもあるでしょう。一方、アジアもメレーシアのマハティール首相がEAE

「日本として国や地域のアイデンティティが大事であり、地域立脚型の思想、考えてしっかり支えたいと地域が沈んでしまっています。人口減少を憂うよりも、今後、

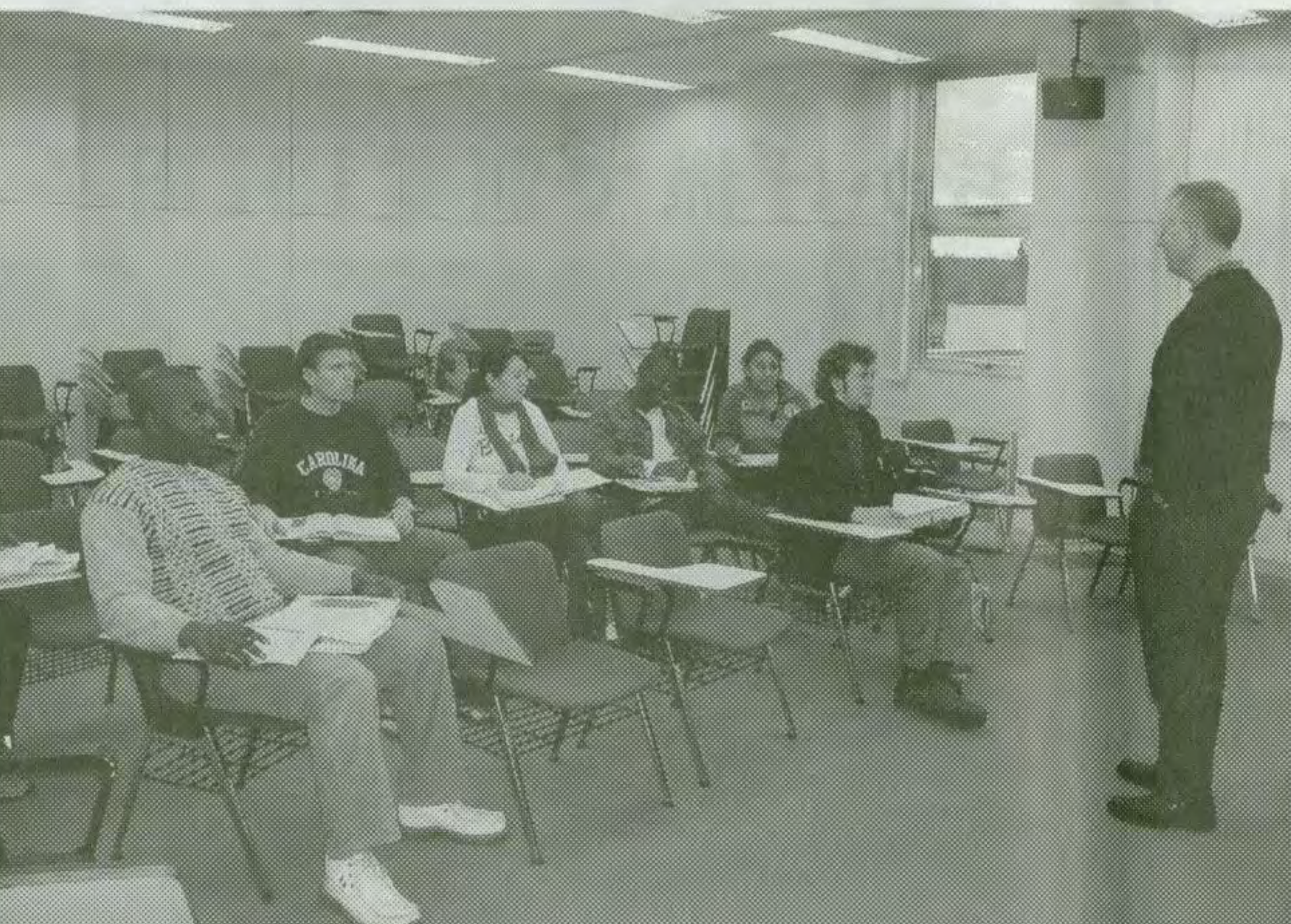
### 世界で活躍する人材の育成

「国連における日本の存在感が薄い理由の一つに、日本人職員が少ないこともあるように思えます。日本の大学は例えば英語などの語学力を含めても、世界で活躍できる人材育成に力を注ぐ必要がありませぬ。国際教養大学は教授陣、カリキュラムなどは国際人養成のための特色ある大学であると感じました。」

G構想を打ち出していますが、現時点では実現の可能性は低いように思えます。将来、アジアでASEANに変わる経済連合体、あるいは共通通貨の可能性はあります。

中嶋学長 ヨーロッパには、ヨーロッパ・スウェーデン・システム(欧州国家体系)という言葉があるように、17世紀以来のヨーロッパ的な国際体系の枠組みがありました。ですから、ヨーロッパの導入まで考えたのです。

一方、アジアには、唯一「チャイニーズ・ワールド・オーダー(中華世界秩序)」というものがありません。これは中華思想に基づく、中国を中心とした「ラミッド」型の同心円的な世界支配構想です。



外国人留学生も多く国際色豊かな国際教養大学

「国際教養大学は、1年間の海外留学が必須条件で、その大学で30単位を取得することになっています。また新渡戸稲造が英文で書いた『武士道』を全学生の必読本としています。卒業時はトールテストで600点以上を目標としています。」